

## 第 6 回 大鹿村リニア連絡協議会を開催

リニア工事による影響調査の情報や住民意見などを共有し、リニア工事全般に関わる事項について連絡調整を行うことを目的に、JR 東海、施工業者、長野県、大鹿村及び住民による「大鹿村リニア連絡協議会」が交流センターに於いて、関係者 50 名が出席し下記のとおり開催されました。

### ■第 6 回 リニア連絡協議会 (平成 30 年 3 月 29 日 午後 7 時 00 分～8 時 45 分 開催)

#### ○リニア工事及び関連工事について

昨年 12 月に発生した県道 59 号の土砂崩落について、3 月 27 日に県庁において専門家を交えた対策検討会議が行われ、JR 東海より県に対し調査結果に基づき報告がありました。その報告内容について JR 東海より説明がありました。

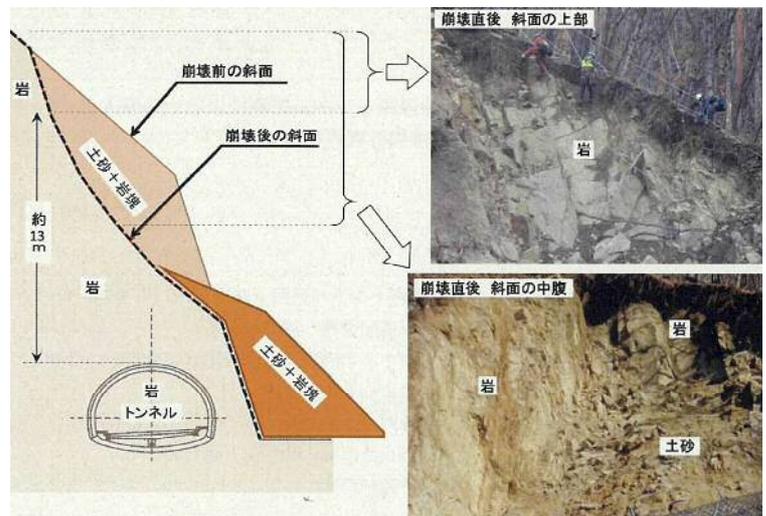
#### ■(主)松川インター大鹿線への土砂流入の発生原因及び復旧計画等について

##### 1. 概要

- 平成 29 年 12 月 15 日 (金) 午前 3 時 25 分頃、(主)松川インター大鹿線道路トンネル新設 (四徳工区) 終点側坑口付近において、斜面の崩壊が発生。

##### 2. 発生原因

- 崩落した堆積物や崩壊発生直後の斜面を観察したところ、今回崩壊した斜面の大部分は土砂のような状態であり、坑口部付近の斜面は岩盤中に土砂を内包する特異な地山状況でした。
- トンネル掘削中は地表面沈下等の計測を実施していましたが、大きな変動は見られなかったこと、崩壊発生以前にまとまった降雨や地震などの自然現象が無かったことから、岩盤中の土砂が、発破による振動で不安定化し、崩壊に至ったものと考えられます。



##### 3. 復旧計画 (本復旧について)

- 斜面の上部については、既に応急復旧工事で実施したモルタル吹付けに加えて、再度モルタル吹付を実施します。また斜面の下部については、コンクリート擁壁とロックボルトによる保護工の対策を実施します。



#### 4. 四徳工区における再発防止について

##### ・さらなる斜面災害の防止について

四徳工区終点側坑口において崩壊後に実施したボーリング調査により、原因となった土砂の分布範囲は特定を完了しています。また、崩落発生後、沿線道路での安全通行確保のため、四徳工区内（全線）において、落石の危険性の有無を確認する地表踏査を実施しています。

##### ・振動の抑制について

今後はトンネルの下半部（インバート部）で掘削作業が必要です。掘削方法は機械掘削を基本とし、局所で硬質な岩盤が出現した場合は、火薬を使用しない方法（静的破砕材）で、振動を抑制します。崩壊斜面では、引き続き計測監視を行います。

#### ○委員意見と回答

意見 仮土留め（防護柵）の撤去はいつ頃になるか。

JR回答 これから道路管理者（県）と本復旧計画について協議を行うため、撤去時期は未定です。

意見 補償の申し出に対する対応について説明願う。

JR回答 補償の申し出があれば大鹿分室が窓口となり個別に対応する。

#### ①（主）松川インター大鹿線改良工事について

##### ■（仮称）西下トンネル 878m ◎平成30年12月頃までの供用開始を予定

- ・現在は、舗装や電気工事等の施工を進めています。
- ・新設トンネルの道路線形に合わせるため、きりがくぼ橋の改良工事を行います。測量等（4～5月）、改良工事（6～9月）の実施に伴い、通行規制（片側交互通行）を実施します。

##### ■（仮称）四徳渡トンネル 1,201m ◎平成31年3月頃までの供用開始を予定

- ・現在は、起点方坑門工、覆工等の作業を進めています。
- ・今後、崩落部の本復旧と合わせ、終点方の覆工や電気工事等を進めていきます。

##### ■現道拡幅工事について

- ・現在施工中の区間5（西下トンネル下）は、平成31年1月完了予定。
- ・その他、区間1～4について、平成31年3月までの完成予定でしたが、現地の詳細な調査の結果、地形状況等に応じて構造形式を変更したほか、すべての範囲が保安林に指定されており、保安林解除申請に時間を要していることから、工事着手は平成31年1月となる見込みです。このため、工事完了は平成32年秋頃まで（約1年8か月）遅れる見込みです。

#### ○委員意見と回答

意見 59号の改良が終わらなければ、リニアの発生土は村外へ運搬できない。2年近く県道拡幅が遅れるとなると、大鹿村内の仮置き場が不足するのではないか。

JR回答 59号の2本の道路トンネルが供用開始できれば、半の沢も発生土運搬先の候補地と考えている。拡幅工事が遅れる分のやりくりはできると考えている。

##### ■小渋線の工事用車両通行台数（実績と今後の予定）について

- ・道路トンネル掘削のピーク時（平成29年秋頃）の通行実績は、半の沢下で最大126台/日（往復）、半の沢（発生土置き場）～滝沢で最大506台/日（往復）でした。

- ・本年度の小渋線のリニア関連工事用車両の予定台数は、半の沢下で最大 178 台/日（往復）、半の沢（発生土置き場）～滝沢で最大 266 台/日（往復）の予定です。

※工事用車両台数は、いずれも「月別日平均（月延総台数を1月当りの工事稼働日数で割り戻した数値）の最大値」です。

## ② 赤石岳公園線改良工事について

- ・区間 5（大鹿発電鉄管路先）、区間 6（日向休下）、区間 7（林道分岐手前）を施工中。
- ・上蔵集落内の区間 1（酪農記念碑付近）、区間 2（ごみステーション付近）、区間 8（福德寺前迂回路）は、5月から工事着手予定。区間 10（日向休上）は、8月から工事着手予定。

## ③ 南アルプストンネル工事について

### 【小渋川非常口】

- ・現在の掘進延長：約 500 m、掘削した土をヤードまで運搬するベルトコンベアの設置が完了。

### 【除山非常口】

- ・現在の掘進延長：約 110 m、発生土は三正坊に仮置きしています。

### 【釜沢非常口】

- ・小河内沢を渡河する仮栈橋の設置が完了。

## ■国道152号迂回ルート（小渋川左岸ルート）

- ・市場通りをリニア工事用車両が通行しないよう、小渋川左岸（青木～大西側）に仮設栈橋を計画 3 本計画し、迂回路整備を行っています。
- ・現在、迂回路運用開始に向け栈橋②、栈橋③を施工しています。栈橋①は地元協議により未着手です。
- ・栈橋③は気象状況により工事が遅れており、6月からの供用開始ができない場合は、大西桜橋を使用することについて村と協議させていただく場合があります。



## ■ 暫定迂回路による工事用車両の通行について（大鹿村より）

- ・ 迂回路の設置にあたり、用地は村が責任をもって協議することとなっていますが、現段階で最上流の棧橋①については協議中であり、本年6月までに棧橋設置ができなくなりました。
- ・ 6月から迂回路の通行が開始されるため、リニア関係車両は市場通りを通行しなくなりますが、資機材運搬車両が暫定的に新小渋橋を経由して、県道赤石岳公園線を上市場～沢戸まで通行することになります。地元の皆様、住民の皆様にご迷惑をおかけすることをお詫び申し上げます。

### ① 暫定的に新小渋橋を通行する期間

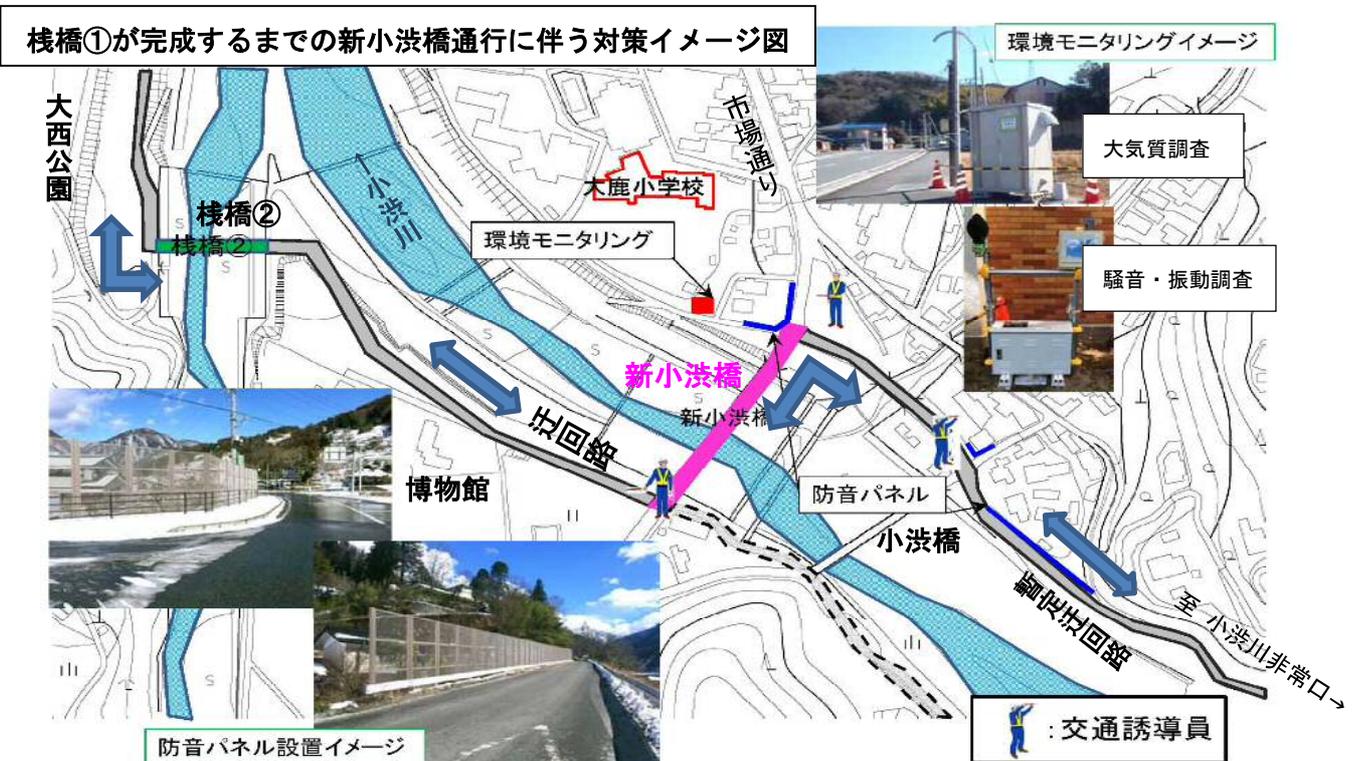
- ・ 棧橋①が完成するまでの期間とし、本年6月～来年3月末までを想定しています。

### ② 工事用車両台数

- ・ 本年4月～5月の期間：現状と同じ市場通りを68台/日（往復）の予定です。
- ・ 本年6月～来年3月の期間：新小渋橋で180台/日（往復）の予定です。

※工事用車両台数は、いずれも「月別日平均（月延総台数を1月当りの工事稼働日数で割り戻した数値）の最大値」です。

### ③ 新小渋橋を通行するにあたっての環境対策・モニタリングについて（\*イメージ図を参照）



### ④ その他

#### ■ 村道上蔵河原線、沢戸河原線の改良計画について

- ・ 今後詳細な調査、設計を行い、改良工事（拡幅、舗装等）を行います。

#### ■ JR東海による青木地区における地元懇談会の開催について

- ・ 国道152号の道路改良計画について、4月に青木地区を対象に地元懇談会を行います。

#### ■ 移動コンテナ局舎による大気環境測定について（大鹿村より）

- ・ 国道152号（落合公園）において、県の移動コンテナ局による大気環境測定を行います。測定項目は、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、風向、風速。測定期間は、平成30年4月から平成31年3月までです。

### ○ 次回（第7回）開催日程等について

- ・ 次回開催時期を平成30年6月最終週とし閉会しました。